

★ まちづくり ニュース



ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Icho/3732/>

201号

2018年5月31日



常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

— 都心低空飛行問題について —

○ 「噂の東京マガジン」で報道

5月20日(日) 1時からのTBS「噂の東京マガジン」で3度目の報道がありました。

人口密集地を低空飛行する計画に、都民の不安はより大きくなっていると伝えていました。港区・品川区民のデモがあり、港区では各町会も反対しています。川崎の石油コンビナートの上をB滑走路から出発した機が、離陸後急旋回するという、パイロットにとっては難題になるコースも見直されることがありません。検査飛行の名目で使った機体は、実際に飛ぶのとは遙かに小さい物でごまかしたようです。

実施まで2年を切ったのにテスト飛行も行っていないまま、まさか実行したりしないでしょうね。落下物も減らないので、私たち都民の不信感は強まるばかりです。

○ 新中央図書館についての話し合い

5月1日、常盤台地域センターで、新図書館について区側の説明と、2班に分かれての意見交換会がありました。外観や詳細はまだですが、3階建て地下1階の図書館の図面ができています。

「公園と一体化した図書館」がコンセプトという説明に、地元の方は、反対を押し切って公園を狭めて作るという経緯に対しての配慮を求めています。反対していた人たちこそ、具体案の検討に加わってほしいと思いました。何を言っても無駄と諦めてしまったのではないかと心配です。こうして無力感から無関心になっていくことが民主主義を形骸化する原因になるのです。市民の意見を無視していくことが重なれば、やる気を失うのは当然で、市民の意向を取り入れるようになれば、もっと板橋区は活気にあふれるようになるでしょう。

○ 常盤台駅改修成る

常盤台駅の改修工事が終わり、5月30日に完成しました。

東武鉄道の英断で、新建築に建て替えることなく、元の駅舎の復原が図られています。

軒下の波形模様のある部分の色については、私たちは永年屋根瓦と同色の青色に慣れていましたが、塗料の調査によると、当初は薄緑色だったそうで、古い住民もその色を覚えていました。

○ 駅舎の保全についての茶話会

今回の常盤台駅舎改修については、建て替えの噂があり、80年以上の文化財が、たとえ移築としても常盤台から失われることになるので、何年も前から住民にとっての懸案になっていました。

更に2年前に南宇都宮駅との近似性が明らかになりました。同駅は宇都宮市景観賞を受け、それが常盤台駅保存の大きな後押しになったと思います。

しかし、肝心の東武鉄道に保存の気持ちがなければ実現しなかったのです。

そこで、昨年、宇都宮美術館の橋本学芸員にお話しをうかがったように、茶話会を設けて今回の保存事業に関わった社員の方に苦労話をし頂くことになりました。

7月のはじめを予定していますが、詳しくは次号でお伝えします。

○ 1・2丁目町会事務所の建て替え

1・2丁目町会の総会は、6月2日開催は誤りで、6月9日(土)2時からとのことです。

常盤台駅への資料提供について

常盤台の駅舎が改修され、五月三十日にお披露目となりました。

新しい駅舎は、一九三五年の開業当時の姿を復元したものと成り、できるだけ従来の駅舎を保存してほしいという常盤台住民の願いをかなえてもらえました。

特徴的なものに、「武蔵常盤小径」という名の展示コーナーがあります。常盤台の街の歴史をたどれるコーナーだそうです。

私たち常盤台の景観を守る会は、この五年の間、何回か写真展や講演会・展示会を催して、住民の皆さんや研究者の皆さんなどに、常盤台の歴史や問題を知っていただく活動を行ってきました。

その間、何人もの方から貴重な資料の提供を受けてきました。今回、東武鉄道からの要請で、それらの写真やパネルなどを新駅舎での展示のために提供しました。

資料の中には、プロの写真家の作品や、提供者のお名前が分かっている物もあります。

ただ、ひとつひとつについて、東武鉄道へ提供することに同意を頂くことはしませんでした。事後ではありませんが、ご了解いただきたいと思えます。

いつか資料館のようなものに常設展示して、常盤台に関心を持つ人の役に立てたいと考えていましたので、このような形で資料が活かされることを嬉しく思います。

大相撲は「国技」にふさわしいか

女性が土俵の上にあがることを禁じている大相撲に対して、表彰側の女性知事や、緊急時の医療従事者に対してさえ、かたくなに伝統とやらを守ろうとする相撲協会に、やっと非難の声が上がりが始めたと思ったら、またぞろ忘れ去られそうな懸念がある。相撲は神事なのかスポーツなのか、はたまた興業なのか、それさえ曖昧なままだ。そんな相撲が「国技」と誰が決めたのだろう。

未だに女性蔑視の伝統に縛られている相撲より、柔道の方が、これからの日本の国技としてふさわしいかも知れない。とりあえず相撲から「国技」の看板をはずしてもらいたい。

かくやのおこうこ

おたくでは、ぬか漬けはどうしていますか？昔は殆どの家が、糠味噌をつけて毎日誰かがかき混ぜていましたね。担当していた年寄りが亡くなったから、どうしても続けられずに止めてしまった人が多いのではないのでしょうか。

ぬか床に入れる野菜は、ナス・きゅうり・人参・大根・カブと多彩でした。取り出し忘れて瓶の隅で、すっかり古漬けになってしまったものを、全部まとめてミジン切りにし、しよっぱ過ぎたら水につけて塩出しをしてからきつく絞り、シヨウガのミジン切りを上に乗せれば、かくやのおこうこの出来上がりです。白いご飯に乗せて、好みでちよつとお醤油をたらずのも美味しかった！

今では「かくや」の言葉さえ知らない人が殆どですが、「隔夜堂」からとか創始者が「覚弥」だからとか、語源は幾つかあるようです。

常盤台公園のはなづくり

今年の天候不順は本当に異常で、なんと秋の萩の花がもう咲き出しています。暑くなったり急にまた戻ったりで、植物も微妙な変化に戸惑っているのでしょう。

芝生の雑草取りはいよいよ大変です。人手が足りない場合、芝生そのものを変える必要があるかも知れません。

先日、変わった鳴き声があるので、頭上を探すと、どうもコゲラらしき数羽がスダジイで鳴き交わしています。小さなキツツキです。板橋区の鳥としては、セキレイではなくコゲラが良いと言っている人もいるくらいで、板橋区では珍しくない鳥なのだと思います。しかし、数羽で群れて行動するとは思いませんでした。鳴き声はあまり美しくはありません。

常盤台駅前のロータリーには時計塔の下や噴水の周りに花の苗が植えられています。誰か手入れをする人がいないようで、雑草が生え放題に見えます。公共のものだと手を出すのが遠慮されるのかもしれないが、区では世話をしてくれるボランティアは大歓迎だと思います。常盤台を愛する人が現われるのを期待しています。

恒例のマーマレードができました。図書館前のチューリップの球根代になりますので、ぜひお買い上げください。